

別紙1 あしたばの会への相談事例

＜ 分科会で明らかにした病氣療養からの就労(社会復帰)の困難さと要望 ＞

- ワークショップ形式で7回開催した分科会で多くの実態・課題・要望などを共有した。なるべく生に近い形で伝わるように記載しており、同様の内容で表現は異なるというようなものも含んでいる
- 「3. 提言」の各項目での説明の多くは本相談事例のサマリーであり重複している

1～8 相談事例：相談者からのメールや電話の内容を少し整理して転載

9. 家族としての経験・意見：分科会で参加者から出された意見

1. 誰も助けてくれない

対応する提言 ⇒ 提言1-1

いのちの電話が繋がらなくてネットであしたばの会を見つけた

北海道 20代女性

精神病で働けないです
親も助けてくれない
支援してくれるところは無い
苦しいです

2. どうしたら良いかわからない、派遣契約解除

⇒ 提言1-1, 1-2, 3-2

東京都 50代女性

今年7月末に癌の転移が見つかり抗癌剤治療中。
当時は派遣で仕事をしていましたが派遣先から契約を解消されました。
加入していた保険を解約して今現在、治療と生活をしていますが残高も少なくなり仕事を探していますが見つかりません。
どうしたら良いのか分からず、ご連絡させて頂きました。
ハローワークの長期療養支援のほうにも登録し就活していますがパートでさえも採用となりません。他、派遣等も応募しています。
抗癌剤の影響か体を動かす仕事は難しく、事務系を探していますが年齢的な問題で書類送付の連絡をする段階で断られることが多いそうです(ハローワークの担当者から)。治療は抗癌剤が主です。
とにかく、体調よりも収入を確保しないと、すぐに終わりが来ます。

3. 経済的に苦しい、フルタイムや自宅外では働けない：柔軟な労働環境必要

⇒ 提言1-2, 3-1

滋賀県 40代男性

前職をうつで退職後、いろいろなことがあり、なかなか外出ができず、ひきこもりの状況です。

家からは出られないので在宅でできる仕事があれば、それをなにかしら社会復帰のきっかけにして、収入が少しでも入ればありがたいと思いご相談させていただきました。80になる母の元で居候し、生活も貯金を切り崩しながら何とか生活している状況です。

自宅で、一時間ぐらいからできるところから少しずつ始めていくことができればありがたいです。パソコンは、ある程度使えます。

4. 傷病手当制度を知らなかった、失業保険受給期間終了 どうすれば良いの…

提言1-1, 1-2

東京都 50代女性

2021年の12月末日をもって4年間勤めていたパートをやめました。雇用条件は週4、1日8時間でした。

辞めた理由は持病悪化により働くことが困難になったからです。

傷病手当って制度があることをしりませんでした。

先日90日間の失業保険の受給期間がおわってしまいました。なんとか失業保険を延長、もしくは傷病手当にきりかえて受給期間延長をすることはできないでしょうか？病名は肝硬変、糖尿病です。定期的に病院にて検査治療をうけており主治医から就労不可能と診断書をだしてもらうことも可能です。なんとか延長できないのか、教えてほしいです。どうすればいいの… 自分の無知を嘆いております。

5. すぐに仕事は始められない、費用がなく引越しできない

提言1-1, 1-2

神奈川県 40代女性

昨年9月～今年3月まで、くも膜下出血により入院していました。復職したいですが、高次脳機能障害(注意障害、遂行障害)になりすぐに仕事を始めるのが難しい状態です。いま、前に勤めていた派遣先の寮でお世話になっています。引っ越したいですが、費用もなく難しい状況です。傷病手当金や生活保護の相談もしたかったです。よろしく願い致します。

6. 難病、生活費、自宅で短時間の仕事なら可能

⇒ 提言1-2, 2-1, 3-1

神奈川県 30代女性

私は現在、病氣療養中(多発性筋炎)のため、通勤を伴うような仕事に就いておりません。

収入額にこだわりはなく、ほんの少しでも良いので、生活費の足しを稼げるようなお仕事を探しています。

私の現在の状況は、自宅にて、パソコンを使用した、1日150円の「通販サイト価格メンテナンス業務」をコツコツ行い、月3,900円～4,150円ほど稼ぎ、合間合間には、「プログラミングの勉強(お金を払い、講座を受講中)」をしながら、ゆくゆくはクラウドワークスなどで、プログラミング関連の案件を取得できればなと思っている状況です。リモートでの仕事をここ2～3年探し続けた結果、現在の生活スタイルとなりました。私は、両親と同居しています。父が退職したら、生活は益々つつつつ状態になるのではないかと懸念している状況です。

私がフルタイムで働ければ良いのですが、そのような体力はなく、あまり頭を使わないような業務で、一日3時間くらいこなすのがやっと。

両親は私の体調を一番に考えてくれているので、全くプレッシャーをかけず、「ゆっくりだよ」と言ってくれてはいますが、私自身、もどかしくて仕方がありません。

その為、1日3時間くらいの自宅で行えるようなお仕事情報など、もしあれば教えていただけないでしょうか？

7. 難病未指定、傷病手当金給付終了、入院費の工面

提言1-2

神奈川県 男性

(1) 現況

- ・ 腸間膜脂肪織炎(ちょうかんまく しぼうしき えん)
- ・ まだ30症例ほどしかなく、難病にも未指定
- ・ 月に1～2回、入院退院をくりかえし
- ・ 相模原市中央区在住
- ・ 傷病手当金を受給中だが、今年いっぱい期限となる
- ・ 現状でも入院費の工面が大変

(2) 相談の要旨

- ・ 傷病手当金以外に利用できる制度はあるか
- ・ 傷病手当金が終了したらどうなるのか

8. 休職中、復職で再発が心配、続けられる仕事かわからない

提言3-1, 3-2

愛知県 30代男性

昨年5月から現在に至るまで8ヶ月うつ病により休職、社会復帰に向け以下相談させていただけないかと思いきご連絡致しました。

- ・ 療養中の体力低下によりフルタイムでの就労に自信がない
- いまは一日30から40分程度の散歩をするぐらいであとは横になる、料理をする、座って動画を見たりする程度です。

・まだ会社をやめていませんが復職してもまたうつ病になるのではと思い、自分にとって無理なく働けそうな仕事について相談したい。
→現在 34 歳で自動車内装部品設計を 9 年行っていましたが復職には自信がなく、だからといって別の仕事を考えてみても、うつ病の心配を抱えた状態でどのような仕事なら続けていけるのかわからず止まっている状態です。

現在のうつ病の症状はかなり良くなっており就労についてお医者様と話している状態です。

9. 家族としての経験・意見

⇒ 提言1-1, 2-1, 2-2

神奈川県 40代女性（夫が脳出血により高次脳機能障害）

(1) 状況は違っても家族としてサポート経験のある人の話が聞ける

親の介護経験者複数人から、サービスはできる限り使いなさいと言ってもらったので、退院に向けてできるだけサービスを利用する前提で準備できた。

実際に帰ってくると、想像以上にストレスと心身の負担になった。

自分の恵まれている点にも目を向けられた。

家族が自分のために使う時間の確保も必要ということも、退院前から聞いておけたのもよかった。

(2) 働くために本人にも一定我慢してもらってよいなど、家族側の気持ちに寄り添った話を聞く機会の必要性

看護師さんに「あなたが働かないと生活できないのだから、そのためには本人の希望と違って施設なりなんなり通ってもらいなさい。あなただけが我慢することはない。」と言ってもらったのも気持ちが楽になった。生活も収入も家族の世話も全部自分がと思うと、家族側がつぶれてしまう。

(3) 家族の就労支援

家族も一定の配慮をしてもらわないと働けない。家族が失職するのも避けなければいけない。短縮勤務などで大幅に収入が減る、休暇を度々取って休職や退職に追い込まれることも容易に想像できる。

また、働いていない家族であっても、家族の病気により働きに出なくてはならないケースもある。

配慮してもらおう条件で仕事を見つけることは難しく、そういった人を応援してくれている会社が増えて欲しいし、そういう会社を探せる or 紹介してくれるところがあるとよい。

(4) 辛いことを聞いてもらう

辛いことは何でも話してくれ、介護で家族が壊れるのを見てきたから話はいつでも聞くからと言ってもらった。

病は本人もショックで落ち込むが、家族もショックだしこの先の不安は大きい。本人にあたられることも家族はある。

家族にストレスがたまり、本人にきつく当たると病人に対して・・・という罪悪感や周りからの目でさらにストレスとなる負の連鎖となる。家族の辛さも吐き出す先が必要。

(5) 利用できるサービスがあるのかどうかをワンストップで知ることができるといい(私費のものも含めて)

医療、介護、障害など、縦割りになっているが、ワンストップでその人がどんなものが使えるのか、その活用の相談に退院時(療養開始時)にわかると安心する。

障害者施設とつながったことで、復職への道のりが見えた。例え厳しい道のりでも「どうすればいいのかわからない」と、「実現が厳しそうだが道が見える」のでは全然違う。

(6) 病気療養者同士、サポートしている家族同士のつながり

情報交換ができるのはいいし、自分だけではないと思えるのもいいはず。どうしても自分の家族のことで頭がいっぱいで視野が狭くなって思い詰めてしまいがちだが、少し楽になるのでは。本人も障害者施設で、他の復職を目指している人の話を聞くことやその人が就労/就学していく事が希望になっているようだった。どんな時期でも勇気をもらえる。

(7) 会社と家族の連絡(本人が休職中)

会社とのやり取りは「本人」を前提としているものがほとんど。

本人が自分の病状を正しく把握し、正しく伝えられる状況であれば機能するが、そうでない場合には、何も連絡がなくなってしまう。

休職の事由によっては、本人だけでなく家族とも面談してほしい。休職中に会社に連絡事項がある場合にはどこの誰に連絡すればいいかを家族にも知らせて欲しい。

(8) 就労後の定着に向けたサポート

病気による配慮をある程度してもらいつつ就労することになる。周囲の理解が必要ではあるが、実際に就労してみると理解できないこともでてくる。

一方、就労してしまうと会社でのことに家族は立ち入れない。就労後に困っていても家族が把握できずに本人が一人で抱えてしまうかもしれない。

定期的に本人と話すだけでなく、周囲の人からも話をきく、周囲の人が理解できないことがあれば、なぜそのような振る舞いになるのかを客観的に話せる、そんな人がいるといいのかもしれない。

(9) 「自分の状況を他人に話せる」ということは、本人にとっても家族にとっても必要

話せる精神状態になるまでも大変なことです、たとえ誰か1人にでも話せるようになるのが第一歩なように思います。

話せれば、理解してくれる人ができ、情報が得られ、選択肢がわかり・・・と繋げていって、病気療養から就労への道が開けていくのではないのでしょうか。

その第一歩の支援ができるといいなと思います。